

両翼78メートル 本塁打を量産したプロ野球のメッカ

【後楽園スタヂアム】

王貞治と長嶋茂雄の「ONコンビ」が躍動し、プロ野球史に燐然と輝くV9を成し遂げた巨人が本拠地とした後楽園スタヂアム。東京では上井草、洲崎に続くプロ野球専用球場として、小石川にあつた砲兵工廠跡地に、着工から完成までわずか5カ月間の突貫工事で1937年9月に開場しました。

本塁から両翼まで78メートル、中堅まで120・5メートル。1924年に開場した甲子園球場（両翼91・4メートル、中堅118・9メートル）と比べると、両翼までの距離が13メートル以上も短く作られました。1934年にベーブ・ルース一行とともに来日した、大リーグ選抜総監督



左翼ポールから左中間方向にアンラッキー・ネットが張られた



1937年10月のポスター

のコニー・マックが「ヤンキー・スタジアムやその他の米国のグラウンドは、たいてい左翼と右翼が近くなつていて、そこにホームランを叩き込めるようにしてある。こういうグラウンドの構成は、ホームランを出すべかりではなく、打撃とピッチングの進歩に大いに貢献する」と、球場建設に対し助言。設計者がそのアドバイスを忠実に取り入れたのです。

果たして、戦前の本塁打数は、甲子園の15・9試合に1本塁打に対し、後楽園では1・7試合に1本塁打と10倍近く量産されました。1941年に甲子園では77試合を行いましたが本塁打は0。一方、後楽園では175試合で93本塁打と、プロ野球の醍醐味が味わえました。

しかし戦後、打者の技術が向上すると両翼78メートルでは球場が狭過ぎるようになりました。そこで1949年のサンフランシスコ・シールズ(3A)の来日を機に、両翼ボールから左中間、



1949年頃のスタンド全景

写真提供: 野球殿堂博物館

右中間のフェンスにかけて“アンラッキー・ネット”を張り、本塁打を防ぎました。さらに1958年にはそのネットを取り外し、両翼を12メートル拡張する工事を行い90メートルに。開場から22年、ようやく他球場並みの広さになりました。

1949年は8球団で一リーグでしたが、1950年には二リーグに分立し、球団数は一気に2倍

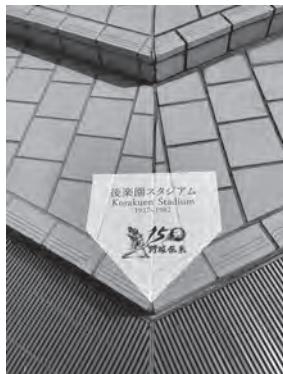
近い15に。しかし、この時東京でプロ野球を開催できるのは後楽園
しかなく、球場問題に頭を抱えていました。両リーグ会長、正力

松太郎連盟総裁、それに球場側も加わった話し合いの結果、巨人、
国鉄、毎日、大映、東急の5球団が専用球場として使用することに。
したがつて日程のほとんどを変則ダブルヘッダーで消化しました。
1950年に開催した年間288試合（両リーグ全体の30%）、同
年7月の月間46試合は永久に破られることのない興行数でしょう。

1959年、天覧試合での王、長嶋初となるONアベック弾、王
の世界新記録となる756号、公式戦最後の868号も後楽園で刻
まれました。また、施設整備では1970年にスコアボードの電光
掲示化を、1976年には人工芝の敷設を日本の野球場として初めて
実施。1987年に51年に及ぶ歴史に幕を下ろすまで、開催した



跡地にそびえる東京ドームホテル



野球伝来150年を機に「野球の聖地・名所150選」に認定された

試合数7168、本塁打1万416は、どちらも球場別ランキングの1位です。試合数2位は甲子園球場の5206で、その差は2000試合近くもあります。近年甲子園の年間試合数は60強ですから、この先30年はその座を譲りません。プロ野球が今日の隆盛を迎えるまでに、後楽園が寄与した貢献度は計り知れないと言えるでしょう。

1988年から戦いの舞台は隣に建設された東京ドームへ移りました。跡地には高層ホテルが建てられ、今も変わらぬにぎわいが続いています。

(2018年5月18日)

参考文献：「後楽園の25年」後楽園スタヂアム
写真提供：野球殿堂博物館

工場の敷地内で開催された広島県初のプロ野球

【福山三菱電機球場】

1936年に公式戦が始まったプロ野球。その球音が初めて広島県に響いたのは戦後でした。終戦から3年。1948年8月4日、福山市の福山三菱電機球場で南海対急映の試合が「日本野球中国シリーズ」として、地元新聞社の主催で開催されました。

三菱電機福山工場（現福山製作所）の敷地内に新装された球場に、早朝5時から野球ファンが詰め掛け、午前9時には内外野のスタンドが1万5000人の観衆で埋まりました。地元の社会人野球チームが前座で2試合を行い、プロ野球選手がグラウンドに姿を見せたのは午後2時30分。



写真提供：三菱電機株式会社・福山製作所

1951年頃の三菱電機福山工場 中央右に見えるのが野球場

きくて格好良かつたですね」。ライトスタンドで観戦した、當時中学生だった沖藤誼さん（85）の記憶がよみがえります。

南海には、のちに巨人へ移籍し300勝投手となる別所昭^{べっしょあきら}、急映には青バットの大下弘の姿がありました。試合は南海が4対0で勝利。6回裏、南海の3番打者がこの試合唯一の本塁打を放ちます。「笠原（和夫）という左バッターの打球が座っていた近くに飛んできました。プロの打球の速さにはビックリしましたよ」。14歳の野球少年の脳裏に刻まれた一打は、70年経つても色あせません。

地元球団の広島カープにとつても忘れない球場です。球団創設の1950年、1月半ばにチームを結成し、広島総合球場で合宿練習を開始。1ヶ月近く厳寒の中でトレーニングに励んだ後、福山へ移動。2月17日にチーム結成初となる紅白戦を三菱電機球場で行つたのです。

さらに3月10日にペナントレースが始まると、16日には球団創設5試合目の中日戦を開催。試合は2対5で敗れましたが、4回裏に白石勝巳が中日の杉下茂からレフトスタンドに飛び込む本塁打。この一打は広島にとって記念の球団第1号ホームランでした。また、この試合に先発したのは19歳のルーキー・長谷川良平投手でした。身長167センチと野球選手としては小柄ながら、黎明期の広島のエースとして活躍。通算197勝を挙げ、『小さな大

球跡2
福山三菱電機球場



投手”と呼ばれた右腕は、この球場でプロとしての第一歩を踏み出したのです。

地方で開催されるプロ野球は大半が自治体所有の球場です。しかし太平洋戦争末期、1945年8月8日の大空襲で市街地の8割が焦土と化した福山市には、公設の球場がありませんでした。そこで白羽の矢が立つたのが三菱電機の野球場でした。民間企業の工場敷地内で行われたプロ野球は珍しく、高岡鐘紡（富山県）、富洲原（三重県）と、福山三菱電機の3球場しかありません。

1950年8月25日には広島対国鉄戦が行われました。前出の沖藤さんは学校を卒業して奇遇にも三菱電機に就職。その試合を、休憩時間にライトスタンド後方にあつた工場から眺めたそうです。

市街地も徐々に復興を遂げ、1951年10月には待望の市民球場が完成。1952年以降のプロ野球はそこで行われ、福山三菱電機球場での試合は前記の広島対国鉄戦が最後となりました。ネット裏の椅子席スタンドや、バックスクリーン、木製の外野フェンスは撤去され、かつてそこがプロ野球の舞台となつた面影はありません。しかし、70年前の暑い夏の日、確かに一リーグの猛者たちが、広島県に初のプロ野球の球史を刻んだのです。



三菱電機福山製作所 この敷地内に野球場がある

(2018年6月18日)

調査協力：三菱電機株式会社福山製作所

参考文献：中国新聞（1948年8月5日）、「広島東洋力一プロ球団史」 広島東洋力一プロ

写真提供：三菱電機株式会社福山製作所

5球団がキャンプを張った野球王国・愛媛の聖地

【松山市営球場】

「いで湯と城と文学のまち」 愛媛県松山市。松山城がそびえる勝山を中心に栄えた城下町は、今も市街地をレトロな路面電車が走り旅情を誘います。松山市営球場は松山城がある城山公園の一角にありました。

地元企業の寄付金と、市内に通う学生らの勤労奉仕により「松山総合グラウンド」として1948年7月に完成。同年12月には巨人対金星のオープン戦が行われました。巨人に



一塁側からは高台にそびえる松山城が望めた（1971年の日米野球第14戦）
© ベースボール・マガジン社

球跡 3
松山市営球場



松山城のお濠の中にあった松山市営球場



400勝投手 金田正一はこの球場でプロの第一歩を踏み出した

は松山商OBの千葉茂が、金星には伊予郡郡中町（現伊予市）出身でその年の9月にプロ野球初の1000試合出場、1000安打を達成した坪内道則が在籍。地元ゆかりのスター選手の凱旋に、初冬の寒空にもかかわらず2万人の観衆が詰め掛け盛り上りました。

二リーグ制になつて球団数が増えると、温暖な気候もあり、松山市営球場は、春季キャンプ地としてプロ野球を導きました。1950～51年の大映を皮切りに、1959年は大洋、1961～62年は大毎、1965～68年の4年間は中日、1974年には日拓から球団を譲り受けた日本ハムがキャンプを張りました。今ではキャンプ地といえば沖縄県ですが、1962年には松山市での大毎のキャンプを張りました。ほか、香川県高松市で東映、高知県高知市で阪神、阪急と、四国4県のうち3県で春季キャンプが行われました。

国鉄、巨人でエースとして活躍し、プロ野球最多の400勝を挙げた金田正一投手にとつては、ほろ苦い想い出が残ります。1950年7月、夏の甲子園予選に敗れると高校を中退し17歳で国鉄に入団。8月23日、松山市営球場での広島戦

でプロ入り初登板を果たしました。5回裏からリリーフすると、同点で迎えた9回裏に2死一・二塁のピンチを招き、阪田清春にライト前へ痛烈な打球を弾き返されサヨナラ負けを喫したのです。

デビュー戦から60余年経った

2017年夏。84歳になつた金田さんが愛媛県新居浜市で行われた親善野球大会でマウンドに立ち、マイクを握りました。「今から67年前。今でも忘れません、初登板が松山球場というお城のそばにあつた球場です。9回裏、広島カープの、名前も忘れません、阪田というキャッチャーにサヨナラヒットを打たれました」と克明に述懐したのです。通算400勝のほか、365完投、5526・2投球回、4490奪三振…。永久不滅と言われる様々な金字塔は、デビュー戦で喫した痛恨の黒星が糧となり打ちたてられたのです。

開場から40年以上経過した1990年代になると、老朽化による整備を余儀なくされました。しかし、球場のある城山公園は国の史跡に指定されており、文化財保護の観点から改修もままなりません。



坊っちゃんスタジアムに移設された「松山市営球場」の銘板



ホームベース、バッターボックス等が当時の場所に再現されている

そこで松山市は市営球場の中央公園計画区域（市坪西町）への移転を決定。完成したのが松山中央公園野球場（坊っちゃんスタジアム、2000年開場）です。その正面玄関の脇には、かつて市営球場に設置されていた「松山市営球場」の銘板が移設されています。

市営球場は2003年5月に閉場し、翌2004年にはスタンド等の施設も撤去。隣接していた競輪場やテニスコートもなくなり、跡地は広大な更地となっています。2011年秋には、野球王国・愛媛の礎を築いた市営球場の歴史を後世に伝えようと、投手板、ホームベース、バッターボックスを当時の場所に再現。解説板も設置されました。

4月下旬、うららかな春の昼下がり。近くの専門学校に通う若者たちが、昼休みに上着を脱いでキヤツチボールを楽しんでいました。かつての愛媛県の野球の聖地は、市民の憩いの広場となっています。

（2018年7月20日）

調査協力：松山市総合政策部

参考文献：「愛媛の野球100年史」 愛媛新聞社

写真提供：ベースボール・マガジン社

跡地に立つ中学校からノーヒッターが誕生

【中津市営球場】

景勝地の耶馬溪^{やばけい}が観光地としてにぎわう大分県中津市。その市街地の中央にあるJR中津駅から徒歩10分ほどの場所に、中津市営球場がありました。

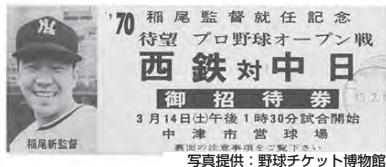
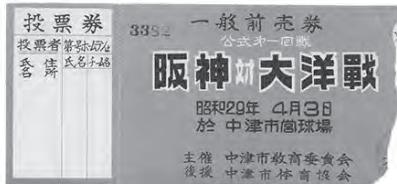
1950年秋に開場。公式戦開催はわずか8試合（セ5、パ3）。1954年にはDeNAベイスターズの前身である大洋松竹が開幕戦を主催しています（4月3日、対阪神戦）。昨今の開幕戦は華やいだ雰囲気の中で行われ、スタンドも満員の観衆で埋まりますが、この日の観衆はわずか6000人。プロ野球は1952年にフランチャイズ制が確立しましたが、当初は球場問題もあり開幕戦の地方開催も珍しくありませんでした。

その試合で生涯唯一のヒットを記録したのは阪神の岡田功内野手です。



写真提供：中津市教育委員会

1950年、開場当時の中津市営球場



中津市営球場で開催されたプロ野球の入場券



球場跡地に立つ中津市立豊陽中学校

1950年に尼崎工業から入団。5年目で開幕一軍切符を手にした22歳は、9回表1死三塁の場面で代打起用されると、洋松の権藤正利投手から三遊間を破る左前安打。プロ通算4打席目で放った記念の一打には、初打点も付きました。しかし、その後は再びバットから快音を響かせることはできず、翌年退団。1957年からセ・リーグ審判に転じると、36年間で歴代最多の3902試合に出場。日本シリーズには13年連続を含む21回出場し、審判員としてその名を球史に刻みました。

中津市営球場での公式戦開催はこの試合が最後となりました。しかし、オープン戦はその後も行われました。1970年3月には「稻尾監督就任記念」として、弱冠32歳で西鉄の監督に就任した地元大分県別府市出身の稻尾和久を招き西鉄対中日戦を開催。1970年代の半ばまで、阪神が3度春季オープン戦を行った記録も残っています。

球場が閉鎖されると、立地の良さもあり1983年8月に市立豊陽中学校が移転してきました。校庭の縁にはライトからセンターにかけて右中間の膨らみが当時のまま残されて

1950年に尼崎工業から入団。5年目で開幕一軍切符を手にした22歳は、9回表1死三塁の場面で代打起用されると、洋松の権藤正利投手から三遊間を破る左前安打。プロ通算4打席目で放った記念の一打には、初打点も付きました。しかし、その後は再びバットから快音を響かせることはできず、翌年退団。1957年からセ・リーグ審判に転じると、36年間で歴代最多の3902試合に出場。日本シリーズには13年連続を含む21回出場し、審判員としてその名を球史に刻みました。

中津市営球場での公式戦開催はこの試合が最後となりました。しかし、オープン戦はその後も行われました。1970年3月には「稻尾監督就任記念」として、弱冠32歳で西鉄の監督に就任した地元大分県別府市出身の稻尾和久を招き西鉄対中日戦を開催。1970年代の半ばまで、阪神が3度春季オープン戦を行った記録も残っています。

球場が閉鎖されると、立地の良さもあり1983年8月に市立豊陽中学校が移転してきました。校庭の縁にはライトからセンターにかけて右中間の膨らみが当時のまま残されて

いて、かつてここが野球場であつたことを偲ばせます。

開校から20年近く経つた2000年春。桜の花が咲き誇る中、他の新入生より一回り立派な体格をした一人の生徒が校門をくぐりました。それもそのはず、父親は大相撲で幕内を7場所勤めた元関取。軟式野球部に入部し投手を任せられた少年は、父親直伝の四股を毎日踏んで下半身を強化したそうです。努力

の甲斐あつて、エースとなつた3年生の時には大分県大会で優勝。創部初の九州大会出場に貢献しました。現在、巨人で活躍する山口俊投手です。

山口はその後、進学した柳ヶ浦高校で1年と3年の夏に甲子園に出場。2005年のドラフト会議で横浜ベイスターズから1位指名されました。球場跡地が中学校となり、そのグラウンドで白球を追つた選手が、かつてそこで開幕戦を行なつたチームに入団する…。絵に描いたようなストーリーが、ここにありました。

その山口投手が2018年7月27日の中日戦で史上79人目、90度目のノーヒットノーランを演じた



校庭の縁には野球場だった形跡が残されている



中津市立豊陽中学校の校庭

ことは、記憶に新しいところです。大分県出身の投手としては1973年の高橋直樹（日拓）以来、45年ぶり2人目の快挙。それは同時に、球場跡地に立つ中学校からノーヒッターの誕生でもありました。

調査協力：中津市教育委員会、中津市立豊陽中学校
写真提供：中津市教育委員会、野球チケット博物館

（2018年8月24日）

紅顔の美少年・大田垣喜夫母校で凱旋登板

【尾道西高校グラウンド】

仮設の内野スタンドに、荒縄がフェンス代わりに境界線として張られた外野。レフト後方に広がる海を、漁船がポン、ポン、ポンとエンジン音を立てながら過ぎ去つて行く——。1950年5月21日、広島県尾道市で初めて行われたプロ野球公式戦、広島対大洋4回戦の会場は尾道西高校（現尾道商業高校）の校内にある海岸に面した「校庭」でした。

専用野球場ではないので、整備は万全ではありません。スコアカードの球場状態を記す欄には「不良、固い」とあり、翌日のスポーツ紙も「校庭であるため地面が固く、凹凸が多く、野手を困らせた」と報じています。加えて、戦争末期には陸軍が同校に入ってきてグラウンドの一部を畑にし、



1958年の尾道商業。中央の校庭でプロ野球が行われた



現在の尾道商業グラウンド

豚を飼っていたため、畑があつた右中間後方はその名残で雑草が生い茂っていました。

2回裏、1死一二塁で広島の9番・松川博聖の放った打球は右中間をライナーで破り、その校庭端の草むらへ転がり込みます。大洋の外野手二人がボールを捲している間に、塁上の走者はもちろん、打者走者の松川も生還したファンニンゲホームランは“ジャングルホームラン”として語り継がれています。松川選手にとつて、これが生涯唯一の本塁打でした。

「校庭でのプロ野球」により母校でプレーする機会を得た選手がいます。尾道西高校から1952年に広島に入団した大田垣（おおたがき）（1957年から「備前」姓）喜夫投手です。高卒ルーキーながら、紅白戦で好投し開幕戦のマウンドを託された期待の右腕は、同年7月23日に母校で行われた対阪神12回戦の先発マウンドに立つたのです。

詰め掛けた2500人の観衆の目は、チームメイトから“バンビ”的愛称で呼ばれた紅顔の美少年に注がれます。その期待に応えるべく、大田垣は慣れ親しんだマウンドで躍動。味方が序盤に2点をリードすると、阪神打線を7回まで被安打2、無失点に抑えます。しかし、8回2死から四球を挟み3連打を浴び5失点。2対5で敗れ、負け投手となりました。

リベンジの機会は翌年4月1日の洋松2回戦でした。この日も先発マウンドに上がるが、4回まで無失点の好投。その裏、広島・白石勝巳が放った右

中間への飛球は、フェンス代わりに境界線として張られた荒縄をすれすれに越え、一塁墨番の筒井修は本塁打と判定。これに対し、洋松の小西得郎監督は「観客が縄を引き下げたのでホームランではない」と抗議をしましたが聞き入れられません。この後、「縄に手を触れないでください」と再三場内アナウンスがされたという微妙な一打は、ファンが協力して生まれた“縄ホームラン”として伝えられています。

本塁打で1点を先制してもらった大田垣でしたが、7回に洋松の藤井勇に同点打を許すと降板。その藤井をリリーフ投手が生還させ2失点。結局これが決勝点となり1対2で惜敗し、不運にも2年連続母校で敗戦投手に。故郷ならぬ「母校へ錦」を飾った凱旋登板は、ほろ苦いものになりました。

白石の“縄ホームラン”が契機となり、セ・リーグ鈴木龍二会長は全球団に規格外の球場を使用しないよう警告を出します。校庭でのプロ野球はこの尾道西高校での試合が最後になりました。二リーグ分立直後の球場不足を象徴する試合は5校で合計8試合行われましたが、母校のグラウンドでプレーしたのは8500人を超すプロ野球選手の中でも、大田垣を含め尾道西高出身の3人しかいない貴重な記録です。

1888年に「公立尾道商業学校」として開校し、数度の改称と移転を経て、2018年10月に節



商業高校としては県内最古となる創立130周年を迎えた
広島県立尾道商業高等学校

目の130周年を迎える広島県最古の商業の伝統校。プロ野球を3試合行ったグラウンドは、今も尾道商業の校内にあり、大田垣の後輩部員たちが甲子園出場を目指して白球を追っています。

(2018年9月21日)

調査協力：広島県立尾道商業高等学校

参考文献：「広島東洋カープ球団史」広島東洋カープ、「PEACE CARP TIMES」中國新聞社

写真提供：広島県立尾道商業高等学校

西鉄黄金時代の「野武士軍団」が躍動した舞台

【平和台野球場】

福岡市の繁華街・天神から徒歩10分ほどのところにある舞鶴公園。福岡城址でもあるこの場所は、春には18種類、1000本を越す桜が花を咲き誇る名所となっています。平和台野球場はその一角にありました。

完成は戦後の1949年12月。前年、同地で第3回国民体育大会が開催された際に建設された球技場を造り替えました。プロ野球初開催はセ・リーグに分立した1950年のセ・リーグ開幕戦（3月10日。西日本対広島、松竹対巨人の変則ダブルヘッダー）。セ・リーグは九州の地で産声を上げたのでした（山口県の下関球場でも同時開催）。翌年に西鉄と合併することになる西日本パイレーツが、福岡市内に球団事務所を構えたこともあり、開幕戦の球



写真提供：野球殿堂博物館

ラッキーゾーンがあった時代の平和台野球場



1949年の完成時は木造建築でスタンド全体が低い設計だった（1953年）
© ベースボール・マガジン社



舞鶴公園入口にある記念碑

それでも「平和台」と言えば西鉄ライオンズ」です。西鉄黄金期の歴史はここで刻まれました。1954年に初優勝を飾ると、中西太、豊田泰光、大下弘、稻尾和久らを擁したチームは1956年から1958年までリーグ3連覇。日本シリーズでもセ・リーグ王者の巨人を下し、3年連続の日本一を達成。スマートな宿敵を相手に、荒々しく立ち向かう選手たちはまさしく“野武士”に見え、その豪放、豪快な姿は平和台のスタンドを埋めたファンを熱くさせました。

今も語り継がれる伝説の本塁打があります。西鉄の中西太内野手が、入団2年目の1953年8月

29日の大映戦で林義一投手から放つた本塁打は、遊撃手がジャンプしてキャッチしようとした打球が場外に消えたと言われ、「160メートルは飛んだ」と言う関係者もいる日本最長飛距離の一打でした。NPB（日本野球機構）に残るスコアカードの雑記欄にも「バックスクリーンを越す場外ホームラン」とあり、担当の公式記録員は推定飛距離を

場として選ばれました。

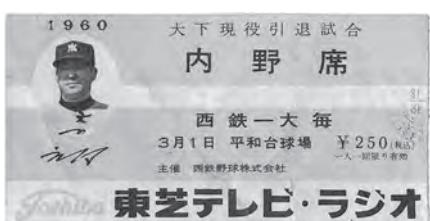
「480フィート（146メートル）」と記しています。

中西さんは「手応えは十分だったが、角度が少しなかつたんで一塁に全力疾走したから打球を見てないんや。自慢話をするにもネタがないんだよ」とスポーツ雑誌のインタビューに苦笑いで答えていましたが、ホームランの飛距離の大半が300フィート台だった時代に、群を抜く一発だったことは間違いないようです。

その中西の1969年の現役最終打席も見届けた田北昌史さん（62）は、小学校1年生の時に見た

1963年の日本シリーズ第2戦を皮切りに、300試合以上の西鉄戦を平和台で観戦しました。「ぶらぶら歩いて行けて、気軽にに入る球場でした。雨上がりのナイターは格別に美しかった」と子供の頃の牧歌的風景が蘇ります。「ライトスタンド下のトイレに入つたら隣に加藤初投手が来て、一緒に用を足しました。西鉄の選手の中でスターは一握りで、みんな隣のお兄さんのような感じでしたね」。今ではあり得ない選手との距離感は、昭和の時代ならではのエピソードです。

ファンに愛されたライオンズでしたが、1979年に西武に買収され埼玉県へ。以降、ダイエーが福岡へ移転して来るまでの10年間、九州からプロ野球の球団が消えました。それでも平和台は、その



1960年3月に行われた大下弘引退試合のチケット



外野席だった場所の外周石垣



緑の更地が広がる平和台野球場の跡地

間も年間20試合以上を開催し、プロ野球の灯りをともし続けました。1989年からはダイエーの本拠地になりましたが、1993年に福岡ドームが完成するとその役目を終えます。さらに外野席付近で平安時代の迎賓館である「鴻臚館」の遺構が発見されたこともあります。1997年に閉鎖となりました。

外野スタンドや外壁の一部は残されていましたが、2005年3月の福岡県西方沖地震により崩落の危険性が生じたため解体撤去。外野席だった場所に残る外周石垣が球場を示す唯一の形跡で、更地が広がっています。結成当時、“九州の田舎軍団”とも揶揄されたライオンズが、日本一強い“野武士軍団”と呼ばれるまでに変貌を遂げた舞台には、緩やかな時間が流れています。

(2018年10月19日)

調査協力：田北昌史さん

参考文献：「プロ野球セ・パ誕生60年」ベースボール・マガジン社

写真提供：ベースボール・マガジン社、野球チケット博物館、野球殿堂博物館

フィギュアの聖地に刻まれた「フィールド・オブ・ドリームス」

大須観音で知られる名古屋市中区の大須地区は、古くから門前町として栄えて来ました。市営地下鉄鶴舞線・大須観音駅の近くに、伊藤みどりさんや浅田真央さんなど、世界的フィギュアスケート選手が巣立つた名古屋スポーツセンター（大須スケートリンク）があります。かつてこの地には、個人が建造した大須球場がありました。

戦災を受けた寺院から、その一帯の土地約4000坪を購入した高島三治さんが、焼け野原で草野球に興じる人々を見て一念発起。終戦2年後の1947年12月に、両翼93メートル、中堅112・9メートルとプロ野球も開催できる規模の球場を造りました。「周りにはまだバラックや闇市な

【大須球場】



左中間に広告看板もあった大須球場。その奥には鐘楼の屋根が見える



大須球場で行なわれたパ・リーグ公式戦の入場券



1947年12月の開場式。後方の小さな山は二子山古墳

両チーム合わせて35得点は今もプロ野球最多得点記録として残ります。1951年10月5日の阪急対大映戦では、大映の4番飯島滋弥が2本の満塁弾を含む3本塁打。この時に飯島が挙げた1試合11打点も、いまだ破られないプロ野球記録です。

その「狭さ」に泣かされたのは、大須球場でプロの第一歩を踏み出した関根潤三さん（91）です。1950年にリーグ分立で誕生した近鉄に入団した関根は同年3月15日、開幕3戦目の大映戦の先

「4000坪と言つても、その一角には二子山古墳（全長138メートル）があつたし、寺院の鐘楼も焼け残つていて球場設計に制約があつたのでしよう。両翼から中堅にかけての膨らみが少なく、外野は狭かつた。ホームランがたくさん出ましたよ」。次郎さんの言葉を裏付ける試合が1950年3月16日の東急対西鉄戦です。両チームで6本塁打が乱舞した試合は、21対14のビッグスコアで西鉄が勝ちましたが、

大須に暮らす次郎さん（85）が70年前の情景に思いを巡らせます。

「なんかもあつてね。そんな時期によく個人で野球場なんでものを造つたよ」。三治さんの長男で、今も

発マウンドを任されます。

5回まで1失点の好投でした

が、6回に

2者連続本塁

打を含む7安

打を浴び8失

点K.O。スコ

アカードを見ると、打球はともに膨らみの少ない左中間に飛び込んでいます。「プロの洗礼を浴びました。立ち直るのに1年を要したとしても記憶に残る球場です」と回想。投手で65勝、打者で1137安打を記録した元祖二万流の脳裏には、今も大須球場が焼き付いています。

プロ野球の使用球場といつても開催は年10試合程度。経営は常に赤字でした。1948年に8試合を行った地元球団の中日も、同年12月に中日スタヂアムが完成すると離れて行きます。1949年はプロ野球興行が1試合もなく、バイケレースやダンスパーティーまで開催して入場料を稼ぎますが、借金はかさむ一方。そんな折、パ・リーグの某球団から「準フランチャイズとして使用したい」との



写真提供：高島文郎さん
準フランチャイズとして使用される話しが持ち上がり新設された左翼スタンド



2018 Nippon Professional Baseball
球場跡地に建てられたフィギュアの聖地・名古屋スポーツセンター



1730年頃に設置され、戦禍も逃れた本願寺名古屋別院の鐘楼

話しが舞い込みます。起死回生のチャンスを逃すまいと三治さんは、さらに借金をしてレフト側に外野席を新設しました。ネット裏の最良席がわずか5段にもかかわらず、完成した外野席は15段を超えており意気込みが伝わります。しかし、様々な事情から準フランチャイズの話が実現することはありませんでした。

結局1952年限りで閉鎖が決定し、名古屋の真ん中に心地よい球音が響いたのはわずか5年間。日本版“フィールド・オブ・ドリームス”で刻まれたプロ野球史は30試合でした。跡地には地元財界の出資でスポーツセンターが建設され、戦災で離れていた寺院も戻り、活動を再開しました。江戸時代中期の1730年頃に設置され、戦禍を逃れ、球場建設時にも移転されなかつた鐘楼が、ストリート客でにぎわう街の一角で静かに佇んでいました。

(2018年11月16日)

調査協力：高島次郎さん、本願寺名古屋別院

参考文献：中日スポーツ（2008年3月16日）、中日新聞（2013年9月21日、夕刊）

参考資料：「幻の大須球場～プロ野球史に刻まれたフィールド・オブ・ドリームス～」テレビ愛知

写真提供：高島次郎さん、野球チケット博物館